



TNVN network news

東京日本語ボランティア・ネットワーク

URL: <https://www.tnvn.jp/> E-mail: office@tnvn.jp

2024年
3月29日発行

No. 121

目次

TNVN創立30周年記念講演会・交流会 報告.....1	特集 「今!ボランティア日本語教室は」 品川区・町田市.....6,7
特集 「今!ボランティア日本語教室は」 中央区・府中市.....2,3	Information 第31回定期総会のお知らせ/2023年度事例報告会/ TNVNホームページのリニューアル.....8
紙上講座 「大阪から中国語を眺めてみました ~「言葉のなまり」は大切なアイデンティティ?」 金子 広幸.....4,5	コラム 「30周年記念アンケート」 鈴木 恵司.....8



TNVN
ホームページ
QRコード

TNVN創立30周年記念 講演会・交流会 報告

〈講演会〉

2023年12月9日（土）、飯田橋セントラルプラザ10階会議室においてTNVN創立30周年記念講演会と交流会が開催されました。コロナ禍がようやく落ち着きを見せるなか、久々の対面での集会和あって定員35名を超える応募があり、来賓、役員を含めて36名が出席しました。

講演会では、NPO法人多文化子ども自立支援センター代表理事・東京の日本語教育を考える会代表の中山眞理子さんが、「外国にルーツを持つ子どもへの日本語支援；現状とそれから～日本語ボランティアに何ができるか？」と題し、日本語指導が必要な児童生徒の数や子どもたちの現状、中学卒業後の諸問題について解説され、待ったなしの支援が必要であると警鐘を鳴らされました。特に東京都は外国人児童の多さに対して支援が不十分であること、外国人生徒の高校進学率は低く、中退者も多いこと、卒業後も就職やビザの問題など、厳しい現実が待ち受けていることなどを指摘され、「高校に入学したから終わりというのではなく、長期的視野での子供の育成と自立した社会人になるための支援が必要だ」と述べられました。

講演会の2時間はあっという間に過ぎて、まだまだお聞きしたいことが沢山ありました。中山さんご厚意で、当日のパワーポイント資料のデータをいただきましたので、東京日本語ボランティアネットワークのホームページに公開しました。トップページから「報告書・講演会・研修会」をクリックし、「TNVN30周年記念講演会」を開くと、スライド画像がカラー刷りで閲覧できます。このページは会員限定となっていますので、ファイルを開くときにはパスワードの入力が必要です。パスワードは各団体・個人会員のみなさまにメールでお知らせしてあります。



講演会
風景



交流会
風景

〈交流会〉

講演会に引き続き、15時半から1時間の枠で会員交流会を開きました。対面での交流会はなんと4年半ぶりでした。これまで毎年の総会の後に交流会を実施してきましたが、2020年からはコロナ禍の中で総会もオンライン開催に移行されました。

今回も密にならないような配慮をしつつ、ご参加の皆様にはいくつかのテーブルに分かれて座っていただき、グループでの話し合いをしました。久しぶりと挨拶を交わす方、ほかのグループの教室との情報交換、運営面での悩みの共有などなどで最初の30分が過ぎました。席替えをして新たなグループでお話しているうちに時間となりました。次の対面交流の機会を楽しみにしましょうと言って閉会となりました。

交流会風景の写真は、会場をお借りしている東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）さんのご好意で掲載させていただきました。（片岡・山形）

これまでも これからも ボランティアとともに

中央区文化・国際交流振興協会

 にい はり みつる
 事務局長 **新治 満**

大津波警報が出ました。今すぐ逃げてください。
あきらめないで逃げてください。

突然、テレビが緊急放送に切り替わりました。元旦夕刻に発生した能登半島地震です。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、迅速な復興を願ってやみません。

一方、この放送も含め、被災地内での外国人への情報提供や避難誘導など、支援や対応はどうだったのか、今後の調査・報告が待たれるところです。

1. 中央区文化・国際交流振興協会のあゆみ&区内外国人数

東京の中央区は、銀座・日本橋・八重洲など、日本屈指の商業地を擁する自治体です。

1991年、区内の文化振興と国際交流を推進するため、中央区の外郭団体として創立されました。

区内外国人数は、協会創立時（1991年）が「835人」

→2024年1月が「10,370人」。

※この間で12倍強の増加。再開発の住宅建設で今後も増加が見込まれています。

※総人口も1996年の7万人台を底に上昇に転じ、今年1月で176,835人に増加。数年後には20万人突破の見通し。また、近年の調査では昼間人口は633,390人、事業所数は34,126でした。

以来30年余、文化と国際交流の関連性を大切にしながら事業を進めてまいりました。

江戸以来の伝統文化と現代文化がいきづくまちです。住み、集う人々には、歴史や文化を学び、わがまちを愛し、誇りに、国際交流の場に臨んでいただきたいと思っています。

2. 協会とともに発展してきたボランティア日本語教室

1998年 29名のボランティアとともに、はじめてとなる協会主催教室を開設しました。

2006年 主催教室を2教室増設し、3教室になりました。

2009年 主催者を協会からボランティアに軸足を移し、有志による新設が続きました。

2024年 現在、協会主催教室3、ボランティア主催教室8計11教室が区内各地で活動中。

ボランティア主催教室には、教室会場となる区施設の使用料相当額や使用教材経費などの助成に加え、教室のPRや学習者の紹介など、途切れのない支援をしております。

現在、11教室の学習者は合計241人。指導者は147人です。

3. ボランティアをどう育てているの？

日本語指導者養成講座	年1回、6月～9月に開催。1コマ2時間、22コマの講習。無料
ステップアップ講座	年7回。1回2時間、日本語文法や指導法など課題別講座。無料

養成講座は、公募の上、選考を行います。指導法やボランティア指導者としての心得などを講師や講習生同士の交流の中で学びます。つまり成長を促す人造りの講座です。修了後の新人指導者には、悩みが出る頃を見計らいフォローアップ講座を開催いたします。

一方、ステップアップ講座は、ボランティア指導者全員に都度お声がけをしております。

4. コロナから学んだこと

流行期、教室は休止。再開しても時間短縮や人数制限など、一部は現在も継続中です。休止期間中も、オンラインによるステップアップ講座など、ボランティア指導者と協会のつながりを絶やささないよう努めました。この間、オンライン手法の利便性・有効性を痛感いたしました。学びには、それ以上に対面形式が重要なことを再確認いたしました。

5. 今後の展望

前述のとおり、外国人区民は増加傾向にあり、学習ニーズの高まりに各教室とも手一杯の状況となっています。しかしながら、日本人も増え続けており、事業所数も多いことから、在住・在勤のボランティア希望者が絶えることがないのは、本区の強みであります。

今後とも、〈地域で活躍したい、指導をしてみたい、仲間が欲しい、など〉のボランティア希望者を募り、育て、支援し、教室の充実を図ってまいりたいと思っています。

その際には、「人と人とのつながりや仲間を大切に」。従前より各教室や各講座に満ち溢れていたこの気持ちをあらためて噛み締め、ともに歩んでまいりたいと思います。

幸いにも、区内全域、5時以降のお店には事欠きませんから。



イベントでボランティアと料理づくり 筆者は左端



日本語教室の様子

快適な生活を営めるよう、 その一助になることを願って!

府中国際交流サロン実行委員会

会長 和田 泰弘



府中市には、東芝やNECなどの大企業、東京農工大や東京外語大などの大学があり、研修派遣や留学で来日する外国人が以前から多く住んでいました。その数がさらに増加してきた頃の1995年4月、府中市に在住、在勤、在学の外国人への日本語学習支援を目的に、府中市からの受託という形で「府中国際交流サロン」が設立されました。

日本語学習支援、文化交流活動、生活情報支援活動の3つの柱を活動理念に据えた任意団体で、現在（2023年3月時点）、192名のボランティア（女性127名・男性65名）、248名の学習者（女性149名・男性99名・国籍51ヶ国）が登録し、活動を展開しています。

設立当初は、日本語に興味のある方、外国人との交流を望む方、外国語を学びたいという方など、ボランティアそれぞれの目的が混在し、日本語学習支援という観点からすると、教える側の技量に差異がありました。それを解決するため、ボランティアになっていただく条件として、20年ほど前から東京外語大の先生を講師としてお招きし、「日本語教授法研修」の受講を義務付けるようになりました。その内容は、日本語教授に最低限必要な文法、表記、音声、教授法、在留資格などの項目にわたり、前期・後期に分けて全20回（1回2時間）の講座を開いています。

活動の中心となる日本語学習会は、月曜午前と午後、水曜の午後、金曜の午後と夜間の週5回（各2時間）を、また昨年秋からは、実験的に月2回、土曜の午後の学習会も実施しています。学習会ごとに学習者の背景に特徴があり、月曜午前が学齢期の子を持つ母親が、月・水・金の午後は留学生、日本人と結婚された方、金曜夜はIT関係、介護施設、板金工場、食品製造などの分野で働いている方が目立ちます。みなさん、日常生活に必要な会話力を培うのが主たる目的ですが、働くために有利な条件となるJLSP（日

本語能力検定試験）合格を目指す方も多くいます。また、学習者の学習状況を把握するために、国籍、滞在目的、滞日期間、日本語学習経験、学習ニーズ等の個人の背景を収め、その日の学習内容を記録する欄も設けた学習者ファイルを備えています。

日本語学習支援に加えて、文化交流活動、生活情報支援に力を注いでいるのも当団体の特徴と言えるでしょう。コロナ前は毎年年末に開催してきた、学習者たちが披露する自国の料理を味わいながら歓談、交流する「サロンの集い」、日本の文化や歴史を体験する「バス研修ツアー」、「生け花・浴衣の着付け教室」、学習者が日頃の学習の成果を発表する「日本語学習発表会」等々は、学習者とボランティアの絆をより深くつなぐ機会として今や欠かせない行事となっています。さらに、病院、子どもの就学、災害時の対応についての情報提供、行政機関での手続き支援等々、学習者の生活面における支援活動も繰り広げています。また、週5回の学習会を超えてボランティアと学習者全員がサロン全体の活動の様子を共有できるように、会報誌「くるする〜」（8頁立て・この3月には第290号を迎える）を月刊で発行しています。サロンの活動内容についてはホームページ<http://www.fuchukokusai.gr.jp>で御覧になれます。

「府中国際交流サロン」はこの4月で30年目を迎えます。府中市に住む外国人の数は、ここ数年は5,500人前後を推移していましたが、昨年後半から急増し、11月の時点では5,982人だったのが、12月には遂に6千人を突破し、6,013人に達しました。

これからも、増えつつある外国の方々の様々なニーズに柔軟に対応しながら、学習者の皆さんが日本で快適な生活を営めるよう、我々の支援活動がその一助になることを目指していきます。



ボランティアの日本語指導力を磨くための勉強会風景

大阪から中国語を眺めてみました

～「言葉のなまり」は大切なアイデンティティ？

日本語教師 金子広幸



紙上講座

放送中のNHKの連続テレビ小説「ブギウギ」は、コッテコテの関西弁で通っていた笠置シズ子さんがモデルですね。歴代の大阪が舞台の朝ドラでは、関西弁が多く登場しますが、大切な役どころの俳優さん達は、実は関東出身だったりして、慣れていない関西アクセント、いえいえ「関西訛り」で話さなければならぬ他の地域の出身の役者さんたちがいたんですよ。皆さん方言指導の方について、血の滲むような特訓を受けていたはずですよ。

2023年度私は『聴く中国語』という、日本人中国語学習者のための雑誌に、1年間寄稿させていただきました。私の日本語教育の歴史には、中国語がびったり重なっているので、話題には事欠かなかったのですが、何せ中国語は専門外ですから、あくまでも日本語教師としてお話しできることを面白おかしくご紹介しました。

専門外なのに…、NHKの国際放送でラジオの中国語の番組を担当させていただくことになり、金子は本当に大変でしたが、朝ドラの俳優の皆さんのご苦勞を思うと、なぜかふと心が軽くなり、とても素敵な経験をさせていただいているのだと、ありがたく思

えるようになりました。私の恩師、李先生やNHKの番組担当者の方は、私の発音を根気よく直して、中国語がおぼつかない金子のために、あまり難しくない表現を選んでくださいました。そんな時にも、朝ドラの俳優さんたちの立場を思いました。本当に大変なことだったと思います。

ということでここでもまた中国語の話です。

読者の皆さんは、どのぐらい中国語に馴染みがありますか？「チンジャオロースー」か「シウマイ」ぐらいしか言えない人もいれば、日常生活には困らない程度の方もいらっしゃるかもしれませんね。

それでは、私が話している中国語がどんなものなのか簡単にご紹介します。

いわゆる「標準中国語」です。中国語の世界の中には、たくさんの方言があって、異なる方言同士ではほとんど通じません。だからこそ、中国に近代国家ができたとき標準語が必要だったというわけですね。私たちが標準中国語と呼んでいるのは、中国ではあまねく通じる言葉、「普通話【プートンホア】】」とっています。中国の北のほうの発音をもとに標準化されたものですが、厳密には北京で話されている北京方言ともかなり違います。

ここで兩岸の国際問題について細かく扱う必要はありませんが、私が学んでいた台湾は、中華民国と呼ばれ、南京を首都にしていたので、いわゆる「普通話【プートンホア】】とは 発音・語彙・文法に若

干の差があります。台湾では「國語【クオユー】」と呼んでいますが、昨今のイデオロギーの影響もあって、「台湾華語」とも呼ばれるようになりました。

この2つの言語ですが、差こそあれ、基本的には同じものなので、問題なく会話をすることができます。クラスにいる中国の人と台湾の人は、同じ中国語を話している感覚があり、お互いの訛りや異なりに敏感に反応しつつ、それでも話は通じています。私の感覚だと、イギリスの英語とアメリカの英語以上に違う気がします。違いがあっても、イギリス人とアメリカ人は特に大きな支障なく、コミュニケーションを行うことができますものね。それと同じです。

それでも…ですね……。

上海や北京に出かけて行って現地の人と話していると、「あなたどこの人？南のほうの人？田舎の人？」と問われます。そして、聞く立場になった時も、ディーン藤岡さんという俳優さんの話す、南のほうの中国語だと、親近感があり、自分の訛りと同じだという安心感があります。ディーンさんは奥さんがインドネシアの華僑の方で、私も台北で学んでいたからです。

私にとっては英語は全くもって「道具」ですから、通じればいいという達観があります。でも、中国語の場合はたまた「より標準化しようとする気持ち」が働きます。それは正式の場所で語るチャンスが多かったこと、より高度な内容を正確に伝えたいという気持ちが働いたこと、また、ラジオの番組で「音声として」中国語を伝えなければならない経験があったからです。

昔は、中国語を話すと「台湾訛りですね」などと言われたりして、普段は日本人として東京の日本語を話している標準意識がある私はずいぶんとプライドを傷つけられ、がっかりしました。北京の人は私が言い間違えたりすると笑ったりしますからね（怒）。悲しいことですが、言語にはナショナリズム的な標準意識というのがあるんですね。そして、広く言語の使用者には、より標準的であろうとするこの力が

働きます。それは母語使用者でも、学習者でも同じです。地域の支援でも「美しい日本語を！標準語を！」とこだわってしまう気持ちもわかります。

失望した私は、信頼できる友人にこのことを話すと、「僕は、日本語を話しているときに、あなたの日本語は大阪弁みたいと言われたら嬉しいです」と言われ、なんだかホッとしました。なるほど、その言語の中の仲間として認められたという感覚なのかもしれません。

地域の支援の場所に集まってきている日本語学習者の皆さんの日本語はどうでしょう。日本人と全く同じですか？違うでしょう？その日本語は、お互いに標準を目指したいという根底的な意識はあっても、その日本語に乗っかっている訛りは、もしかすると、その人にとってはアイデンティティを表す大切な部分かもしれませんよ。

朝ドラの俳優さんも大阪人としてのアイデンティティをしっかりと演じてくださっているんですからね。酷なようですが、一部の例外を除いて、学習目標言語として日本語を学んだ学習者は、子供の時から日本語を話している日本語母語話者と同じように話すことはほとんど無理でしょう。だとしたら、「俺はこれでいいんだ！」と自信を持って日本語を使えるようになることが、自己肯定感につながると思います。

その人らしさを、支援者の皆さんも学習者の皆さんと一緒に探してみませんか？



学習者に寄り添って40年、 そしてこれからも～

特定非営利活動法人 IWC国際市民の会
理事長 坂本 英樹



当会は、1983年に港区で来日している外国のご婦人たちに、生活に密着した日本語の指導を行うために始めた日本語教室がルーツで、IWCは「国際婦人クラブ(International Women's Club)」の略称でした。創設者の伊藤美里氏が掲げた理念は「日本人も外国から来日した人々も、それぞれ得意とする能力を生かして協力し合い住みよい社会を創る」ということで現在でも会員は共有しています。その後、子供たちや男性たちが学習者として入ってきて、別名の会IAC「国際理解の会(International Awareness Circle)」を併設しました。1998年にIWCとIACを合併し「IWC/IAC国際理解の会」とし、1999年6月に東京都のNPO法人の認定を受けました。2005年に、団体名も元のIWCを「Interact With Community」と読み替えて、「IWC国際市民の会」に改称し、現在に至っています。活動拠点は1986年から徐々に品川区に移していき、2018年に現在の南大井に移転しました。

当NPO法人の主たる活動は4つあります。1.品川区教育委員会から委託を受けている児童・生徒対象の日本語教育と学習支援、2.成人を対象とした日本語教室、3.東京都の高校に入学希望の外国人の高校入試支援、4.東京都や関連団体との連携事業や学校を含む外部団体からの依頼による日本語指導支援事業です。また、平日は仕事などで教室に来れないが日本語を勉強したいという方々を対象として土曜日に補習教室を開いています。

当会の児童・生徒との関りは、伊藤美里氏が品川区の教育委員に推薦され、ある学校の外国からの学習者のいる現場を見て、日本語がわからない児童生徒の実情を知り、品川区と相談して「取り出し日本語教室」を開設しました。そして1998年に児童・生徒対象「日本語指導短期集中教室」が品川区教育委員会の委託事業となりました。今まで約40か国、900人超の児童・生徒を指導してきました。成人を対象とした日本語教室では、仕事や日常生活で日本語を必要とする方たちに、文法と会話を中心に教えています。

高校入試支援教室では、高校受験に必要な日本語や教科の指導、試験対策として面接の練習などを行っています。また、大田区のNPO法人とも協働で、高校進学ガイダンスなども開催しています。2018年からは東京都立六郷工科

高校の外国にルーツをもつ生徒への日本語指導を協定書締結のもと行っています。2023年度は東京都教育委員会が推進する事業として、他の都立高校の外国人生徒への日本語指導を行っています。

当会の会員は2024年1月現在70名在籍し、当会の活動を支えています。

活動拠点は、児童・生徒対象の日本語教育と学習支援は品川区山中小学校の教室で、成人日本語部と高校入試支援は品川区南大井の事務所の中の2教室で行っています。狭いながらも活動拠点があることは、当会の活動にとって大きな利点となっています。コロナ禍では、対面授業が難しくなったため、会員がオンラインで授業に使うスキルを勉強し、オンライン授業を行いました。現在でも対面授業とオンライン授業を併用して活動しています。

当会の直面している課題は、講師を務める会員の方々の高齢化です。新しい講師を確保するために以前から行っている「日本語ボランティア講師養成講座」を一昨年より再開しました。今年から国による日本語教育機関の認定と登録日本語教員制度が施行されますが、ボランティア講師による学習者に寄り添った日本語指導は引き続き重要な役割を果たしていくと思っています。

TNVN発足時からの会員として今後もTNVNの活動に協力していきます。よろしくお願いいたします。



日本語支援と国際交流、 これからも2本柱で活動を



まちだ地域国際交流協会（MIFA）

会長 黄川田 南

まちだ地域国際交流協会（略称 ^{まいふあ}MIFA）の成り立ち

MIFAは1993年に「地域の外国人との共生」を目指して創設された民間のボランティア団体で、町田市とその周辺に住む外国人を対象に日本語の学習支援と、国際交流の活動を行なっています。コロナの荒波を乗り越えた昨年4月に創立30周年を迎えました。

日本語教室の現状

教室は、月・火・木・土曜日の午前中および水曜日の夜間に開催しています。さらに、月曜日の午前中には幼児を抱えた人向けの親子教室もあります。

教室は無料で使える市の施設を主に予約・利用していますが、抽選であるため、他のグループと利用が重複する場合は有料の施設を利用することもあります。

教室の運営は教室毎に設けたコーディネータが担当し、会との情報共有および教室間の連携を図るために月一度コーディネータ会議を開催。

今年度の会員は100余名で、本年1月時点でその約70名が1対1で学習者を支援中です。

ボランティアの養成、研修

会員の退会などで新たな支援者の増員が必要になったときは、独自に日本語学習支援ボランティア養成講座を開催し、ホームページやタウン情報誌などを利用して受講者を募集。講師については、TNVNにご支援・ご協力をいただいております。講座では、講師による日本語の教え方のほか、支援者の体験談や学習者を囲んだ会話も体験してもらっています。

入会して1年目の支援者には支援を始めて感じた疑問や問題に「フォローアップ研修会」でアドバイスし、一般の支援者には適宜「ブラッシュアップ研修会」を開催。

コロナ禍の影響

コロナの感染拡大に伴い、MIFAは2020年2月に教室を休止してから2022年7月の3回目の再開までの約28カ月の間に、断続的に合計約24カ月の休止を余儀なくされました。その間に学習者数は半減し、教室以外の活動も停滞しました。しかし、3回目の再開以降は教室を安定して開けていることもあって、教室への参加者はクラスにより偏り

はあるものの回復傾向にあります。30周年を迎えた昨年、教室以外の活動もコロナ前の状況に回復させようと始動しました。

他の教室に紹介したいMIFAの活動

MIFAは、その正式名称「まちだ地域国際交流協会」にあるように、日本語支援のみならず学習者との「国際交流」に努めています。外国人との共生を図るには相互理解、すなわち学習者に日本のことを知ってもらうこと、そして会員が学習者の国のことを知ることが大切だと考え、次のような活動でも会員、学習者の交流を行なっています。

年初めには、学習者にお国自慢の料理を作って持ってきてもらい、皆で歓談しながらそれをいただいています。また、学習者に日本文化を理解してもらうための「浴衣」「習字」「お茶」の体験会や親睦のための遠足なども開催して楽しんでいます。

困っていること

どのボランティア団体でも同様と思いますが、役員のなり手不足に困っています。それに伴って役員の在任期間が長期化し、負担が増えてきています。この事態を何とか打破し、新陳代謝を図りたいものです。



活動風景（浴衣・うちわ作り体験会）



東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN) は都内のボランティア日本語教室のネットワークで、会員からいただく会費で運営している民間の団体です。会員は日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人を、隣人として支援しています。又、TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが対応いたします。メールでお問合せください。

*対面でのご相談にもお応えします。ご希望の方は、以下メールでご予約の上、おいください。

日時：毎週金曜日午後2時～4時
(祭日休み)

場所：東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線-出口B2b)
飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10Fロビー

◆郵送先

〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆E-mail：office@tnvn.jp

◆URL：https://www.tnvn.jp/

◆郵便払込

口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数 (2024年3月29日現在)

正会員：85団体
協力会員：15名
賛助会員：4団体

◆編集／大野 敏宏、岡田 美奈子、小野 美恵子、仁村 謙子、林川 玲子、山内 眞理、渡辺 紀子

◆レイアウト／美巧社

「121号の読後感想をお寄せ下さい」



https://forms.gle/tQ4nV9VYCKLkVU5W6

●第31回定期総会のお知らせ

4年ぶりに対面で定期総会を開催します。
日時：2024年5月26日(日)午後1時～4時30分
場所：東京ボランティア・市民活動センター 会議室B
定期総会：午後1時30分～2時30分
情報・意見交換会：午後3時～4時30分

●2023年度事例報告会を実施しました

2024年3月8日午後7時～8時30分(オンライン) 参加者31名
報告者：① 中村三千子さん(ちよだ日本語カフェ「Swan」)
② 山形美保子さん(LTC友の会)
今回の発表者を募集しています。

●TNVNホームページのリニューアル

2023年度も前年に引き続きホームページのリニューアルを継続いたしました。

(1) ボランティア日本語教室ガイドの棚卸し

教室ガイドの掲載情報を最新にすべく、2023年8月に教室ガイドに掲載されている全教室に対して調査を実施、変更があった部分について情報を最新に更新しました。(合計66教室について更新を実施)
今後も教室ガイドの掲載情報に変更がある場合はTNVN事務局で随時変更いたしますので、office@tnvn.jpまで連絡下さい。

(2) TNVN会員に限定した情報の提供

2023年度よりTNVN会員に限定した情報をホームページから提供を開始しました。2023年度は以下の2つの情報を会員限定で提供を完了しました。

- ① TNVN30周年記念アンケートの全回答(2023年12月)
- ② TNVN30周年記念講演会資料(2024年1月)

(※会員限定情報の閲覧にはパスワードの入力が必要です。パスワードは各教室の代表にお送りしました)

(3) ホームページの見易さの改善

- ・会員の皆さまの情報を掲載する「イベント掲示板」のアイコンをトップページに新たに設定することで、より使い易くしました。
- ・「報告書」のアイコンを「報告書・講演会・研修会」のアイコンに変更。今後日本語ボランティアに関する報告書とともに講演会や研修会の資料も掲載していきます。



TNVNホームページトップ画面の改善

Column

「30周年記念アンケート」

昨年9月にTNVNの30周年を記念して実施したアンケートでは会員の皆さまからたくさんのお返事をいただきました。(全回答はTNVNホームページに掲載されていますのでぜひご覧ください)

アンケートの回答をすべて読ませていただけてまず感じたことは、昨今のITの進化やこの4年間のコロナ禍の影響からか、日本語ボランティア教室には今まさに大きな変化が訪れているのではないかと感じました。ZOOMなどのITツールを使ったオンライン教室が格段に増えたり、インターネットやスマホ・タブレットを利用した新しい学習方式を採用する教室が増えているなどはポジティブな変化と言えるでしょう。一方、コロナ後に学習希望者がどこも大幅増加

しているなかで、対応する日本語ボランティアの数が年々減っている教室が多いようで、これはとても心配になる変化だと思います。

また個々の回答についてもそれぞれ大変興味深く、日本語ボランティアには実に様々なタイプの教室があることやそれぞれの教室は学習支援のために独自にいろいろ工夫を凝らしていること、さらに同じような問題に悩んでいる教室が実に多くあることなど、実に読みごたえのあるアンケートになったと思います。

最後にアンケートへのご協力どうもありがとうございました。TNVNは今後も会員の皆さまに日本語ボランティアに関する様々な情報をタイムリーに提供する良き「ネットワーク」であり続けたいと思います。(鈴木恵司)